

皆んなで選んだ
今月の秀句

賃金が上がらぬ国の物価高
地をはって生き抜いてくれウクライナ
地が裂ける心も裂けるウクライナ

小山 宏助
坂本 小さこ
周 立東爺

宇宙から見たウクライナ



「プーチンの戦争」だけが原因ではない。政府の経済政策の失敗で日本国民は疲弊している。低賃金と物価高。ウクライナの皆さんも頑張ってください。生き抜いてください。(周)

「和」川柳社 4 月会報 No. 715

定例会 2022 年 4 月 28 日 (木)

来月例会案内

5 月例会
投稿締切
課題「政」
自由吟
自選句、自解筆もよろしく。

5 月 26 日 (木)
23 日 (月)
3 句以内
5 句以内

◆ 目次

川柳互選・課題吟「地」	2
自由吟	3
推薦句の短評	6
おたより	8
ほのぼの川柳	8
川柳連作・《川柳ひと言》	9
詩人・栗原貞子	10
世直し川柳かわら版	11
連載／夢二「東京災難書信」	12
戦争前夜抄《38》	13
鈴木義男という人	16
編集後記を兼ねて	16

5 月の例会も誌上です。

4月の 川柳互選

◆ 点の付け方

推薦句◎…2点、準推薦句○…1点
◎3句以内。○全体の半数以内。

◆ 課題吟「地」(互選)

一人 3句以内吐

(投句16人／17人の互選)

地主さん畠をいつか手放すの	一角
1 今ウクライナ平和自由の地へ	宏
2 一族の姓に戴く地の一字	尉
2 あの方は不在地主とつつかれた	一角
2 天地人地に足付けて進む俺	一角
3 ごり押しの戦争地上にあふれてくる	ふさ子
3 地上の星と太陽どこへ行つたやら	未知子
3 ウクライナからシベリア送り退避の地	立東爺
3 四島はロシアの戦利土地にする	宏助
3 多数派へ大臣病となる地位に	宏助

3 空き家村隣も行けぬ荒れ地なる	ひろみ
3 地位高い方頭を垂れずか	宏
4 プーチンへ侵略戦で地に墜ちる	尊柳
4 地べたに踏まれ雑草にも五月晴れ	大峰
4 ₁ 声枯れて地元産物すつからかん	ひろみ
5 地に足が付いた生き方してきたか	尉
5 核戦争地球破壊の危機が来る	尊柳
5 地下壕生活耐えられませんか三月月	未知子
5 「維新」敵地攻撃ギャンブル依存	宏
5 地下壕の人間は蟻？プーチンよ	撤棄
5 この大地いつか私に味方する	ダン吉
6 地の塩となろうただ今少数派	ダン吉
6 昭和遠し地底のうたを耳にして	尉
6 シベリアへ向かう避難地Z文字	立東爺
7 参補選 地元で決まらず落下傘	高坊
7 ₁ 保釈金地獄の沙汰も金次第	北の山
7 ₁ 天地狂乱生を許さぬジエノサイド	亀公子

7 ₂	プーチンの事は言うな沖縄地位協定	大峰
8	侵略者の地雷の土産要りません	撤棄
8 ₁	ハイテク戦なれど土嚢に頼る民	白真弓
9	豊かさを目指して増える過疎地域	宏助
9 ₂	地球人戦争好きねと宇宙人	高坊
11	地球儀がハチの巣状の弾の傷	亀公子
11	麦畑の地平線からロケット弾	立東爺
11 ₁	ひょうたん島地球は一つと歌ってる	白真弓
11 ₂	地産地消 小規模農業今必須	高坊
11 ₂	血の雨は決して地をば固めない	白真弓
11 ₃	地に墜ちたあのプーチンの平和論	ダン吉
12 ₂	孫に習う地の虫踏むな命ある	ひろみ
13	地の果てに生きる場のない核戦争	ふさ子

◆ 点数表記について

点数右下の小さい数字は、2点句◎に推した方の数です。

13 ₁	「太陽が見たい」地下で咳く子どもたち	未知子
13 ₃	コロナ下も春の大地に花が咲く	尊柳
13 ₃	兵埋まる地に向日葵は今日も咲く	撤棄
14 ₄	地をはって生き抜いてくれウクライナ	ふさ子
17 ₅	ヒマワリの大地を染める血の夕陽	亀公子
18 ₅	地が裂ける心も裂けるウクライナ	立東爺

◆ 自由吟（互選）

一人5句以内吐
(投句16人／17人の互選)

1	老犬の四十九日を迎えむか	尉
1	裏側から笑い転がる独り湿布	ひろみ
1	移住者がオウムのごとき加賀の地へ	高坊
1	横浜和歌山カジノNOへ	宏
1	ハラスにも劣らずルイの記憶濃し	尉
1	脳味噌と相談しながら生きていく	未知子
1	千島列島奪ってるのかあの国だ	ダン吉

2	専守防衛九条抜き	宏	4	戦争に行ける子チラシに手を伸ばし	白真弓
2	息絶えた側に色のない桜	ひろみ	4	物価高十%以上の根上りぞ	宏
2	戦争と核についてはつきり意志を	ふさ子	4	戦争テロ遭難心安まる暇もなし	未知子
2	サラダ油 遺伝子組み換え 製品よ	高坊	5	他の国の制約ばかりに素早い日本	ふさ子
3	榴弾を輸出儲ける死の商人	一角	5	コロナ菌地位協定を無視ですか	宏助
3	宙をとぶ時代に起こす核のありきを	ふさ子	5	独裁者あなたに親子はいないのか	北の山
3	ヒロシマや長崎ビキニの核共有	白真弓	5	ロシア側挑発自衛を主張する	尊柳
3	八十路間近か身辺整理未だ早い	未知子	5	東京裁判全員無罪を主張する	尊柳
3	洗脳頭は日本も敗戦まで続く	大峰	5	反戦も老年委員がんばるぞ	一角
3	戦犯に成りたいかい改憲論者共	大峰	5	ミサイルは額賞く血の雨を	一角
4	戦争テロ遭難終末時計がチクタクと	未知子	5 ₁	何万の暮しが吹き飛ぶミサイル道楽	大峰
4	亡き犬の散歩コースや初つばめ	尉	5 ₁	解放という名の略奪虐殺拉致抑留	撤棄
4	飛行機雲? いえいえあれはケムトレイル	高坊	5 ₁	デモ敵視モノ言う奴はリスト入り	亀公子
4	命軽し光失った罪なし子	ひろみ	5 ₂	切歯扼腕ペンの力に今賭ける	ダン吉
4	四度目を待つ老体が腕さする	宏助	6	強い祖国目指すリーダー詐欺師なり	撤棄
4	プーチン軍隊火付けから殺しまで	大峰	6	是々非々と聞いてあの顔思い出し	北の山
4	洗脳頭に覇権叩き込み	大峰	6	ウクライナ戦対中侵略想わせる	尊柳

6	陸自デモをテロと同列広報映像	宏	8	地球をも破壊するのか核おどし	立東爺
6	参院選皆で開こう我が未来	高坊	8 ₁	人心はあるのかロシアの独裁者	ふさ子
6	南京事件有った事実を否定する	尊柳	9	ストは御法度自民と連合握手する	大峰
6	ウクライナ蠅一匹も許さない	ダン吉	9	選挙権ないのに戦に送られる	白真弓
6	国会の泥田で取っている泥相撲	大峰	9	来る揺れをじつと待ってる地震計	立東爺
6	虐殺を相手のフェイクと否定する	尊柳	9 ₁	不都合と地名消された731	白真弓
6	戦前の日本ロシアで追体験	撤乗	9 ₁	株式の値上がり続く死の商人	一角
6	核ボタンだけを信じてはるらしい	ダン吉	9 ₁	自民党強請(ねだ)れば出ます給付金	宏助
6 ₁	九条に迫る攻戦包囲網	亀公子	9 ₁	ウクライナ今日も夕日が血の色に	立東爺
6 ₁	暴力を是とする奴にない笑顔	亀公子	9 ₂	プーチンよう育ったらこうなるの	北の山
6 ₁	オクミロン半導体まで振り回す	宏助	9 ₂	戦争で死の商人行脚せり	宏
6 ₁	元総理共有論と言う狼藉	ダン吉	9 ₂	ロシア人プーチン去るまで檻の中	撤乗
7	泥沼にはまるZマークの侵略者	亀公子	10 ₁	あの音の先に必ず血と瓦礫	立東爺
7	友好で悲惨な歴史上塗りす	白真弓	10 ₁	北鮮にもミサイル好きな三代目	大峰
7 ₁	地下壕に砲撃耐える五十日	尉	11 ₃	シエルターに籠もれるあどけなき笑顔	尉
8	同じ穴のムジナのような安倍プーチン	撤乗	12 ₁	虐殺をロシアだけの話にし	一角
8	老いてよし懐深く生きてよし	ひろみ	12 ₂	どの眼にも悲しみの火が燃える国	亀公子

12²

生きてやる認知症を道連れに

未知子

13³

賃金が上がらぬ国の物価高

宏助

15³

戦争の裏チャンネルは旅グルメ

立東爺

(※ 深謝です。) 選考資料に間違っていました。

以下、高坊さんの句を紹介します。

県民度？ あれだけ低い投票率

高坊

◎◎推薦句への短評◎◎

◆課題『地』……………

・地をはつて生き抜いてくれウクライナ ふさ子

ロシア帝国の夢ふたたび。理不尽なロシア・プーチンの侵略戦争への怒りはこの一句に凝縮されます。

「ペンは剣より…」今、私たち川柳人も問われていますね(ダン吉)

・地に墜ちたあのプーチンの平和論 ダン吉

昔日本が朝鮮でして来たように侵略者は同じ事をして
いる(亀公子)

・地が裂ける心も裂けるウクライナ 立東爺

戦争の現実を見せつけられ続けるとマヒ状態になりそ

うで…(亀公子)

・麦畑の地平線からロケット弾 立東爺

全てが落ちていく世の中(白真弓)

・コナ下も春の大地に花が咲く 尊柳

「国境を知らぬ草の実こぼれ合ひ 井上信子(井上剣

花坊の連れ合い)」を思い出した(白真弓)

・ヒマワリの大地を染める血の夕陽 亀公子

ウクライナの国花、ヒマワリ(向日葵)。BBCが伝

えたニュースで、ウクライナ人女性がロシア兵に

向かって「このヒマワリの種を持って行きなさい。

あなたがここで死んだ時、そこにヒマワリが生え

るように」と言ったことが話題に。私も彼女の機

知に感動し、「兵埋まる地に向ひ葵は今日も咲く」

と詠んでみました。彼女の発言の典拠となったの

は、1970年公開のウクライナを舞台にした「ヒ

マワリ」という戦争映画。相次いで再上映されて

います。ヒマワリの種が新たな平和のシンボルに

なる日も近いのかもしれませんが(撤棄)

向日葵の一本一本が戦死した兵士を表すとか

(白真弓)

・「太陽が見たい」地下で呟く子どもたち 未知子

母性の句。命守る性の感じがする(男性にも母性はありますから)。この句の場合「」はいらないと思います(白真弓)

・「コナ下も春の大地に花が咲く 尊柳

自然は健全(尉)

・孫に習う地の虫踏むな命ある ひろみ

全てのものに命あること。孫が言つたひと言を詠んだこの句がとても身近に感じられる。一人でも多く「命は一つ」を知って欲しい(ふさ子)

◆自由句……………

・戦争の裏チャンネルは旅グルメ 立東爺

国民の劣化(尉)

ロシアは戦争をテレビに流さず日本はかくの如し

平和(亀公子)

・解放という名の略奪虐殺拉致抑留 撤棄

ネオナチからの解放を旗印にやりたい放題の乙軍

(亀公子)

・どの眼にも悲しみの火が燃える国 亀公子

「悲しみの火」に震えた(白真弓)

・九条に迫る攻戦包囲網 亀公子

今や九条の危機(白真弓)

・あの音の先に必ず血と瓦礫 立東爺

当然の情景描写(白真弓)

・生きてやる認知症を道連れに 未知子

悪政に抗う老い(尉)

そのすさまじい決意、俺もいろいろ病気は持つているが昨年秋に入れ歯を始めてからガクツときた。入れ歯では道連れ程ではないのかもしれないが、この句の作者に敬意を払いたい(一角)

・自民党強請(ねだ)れば出ます給付金 宏助

全ては選挙対策(尉)

◆総評 内容が難しい句が多いと思いました。すぐに

句意が分かるような表現をのぞみます(ふさ子)

ほのぼの川柳

子供だなキカン言葉で喧嘩する	神田 鯛
我が娘不機嫌ばかり思春期だ	神田 鯛
我がクルマ走行距離が頑固増え	神田 鯛
まだコロナ山菜が待つ山に行こ	東 爺

川柳連作「戦争惨禍」 遠田亀公子

産まれ出て聴く警報と爆音と
 1000キロを少年一人逃避行
 国連が野放しにする殺人鬼
 血だらけの手が離さない核ボタン
 雨の中瓦簾の上に立つ半旗
 プーチンの轡を嵌めたZ軍
 人道回廊連行先は遠い地の果て
 ヒマワリを根絶やしにする無差別砲
 見せしめに女子供へ弾の雨
 暴政が市民の命もてあそぶ

おたより

◆岩佐ダン吉さんより

「商業紙」にもロシアのウクライナ侵略戦争の川柳が圧倒するようになりました。

しかし仲間の「会報」にも ① 戦況の一般報告 ② 平和を祈る的表现で終わっているものも少なくありません。「ペンの力」を信じたい、大きくしたいと思うなら川柳人として、どう関与していくのか考えたいと思います。

◆遠田亀公子さんより

連休になって、急に忙しくなってきました。畑もね(^^)/ 頑張りますよう！

◆耐さんより

誌面が一方通行でなく、対話がより多く深くなってきましたね。編集はご苦労でしょうが、手応えがありますよう。

亀公子の《川柳ひと言》

ウクライナの国民的詩人シェフチエンコの詩に「遺言」(1845)という作品があるのを知った。それを次に紹介する。

「遺言」

わたしが死んだら
なつかしい ウクライナの
広い丘の上に
埋めてくれ
限らない畑とドニエプルと
けわしい岸べが みられるように
しずまらぬ流れが 聞けるように
ドニエプルが ウクライナから
すべての敵の血潮を
青い海へ 押し流すとき
わたしは 畑も 山も
すべてを捨てよう

神のみもとに かけのぼり
祈りもしよう だがいまは
神のありかを知らない

わたしを埋めたら

くさを切つて 立ち上げれ

ウクライナの自由を

かちとつてくれ

そしてわたしを 偉大な 自由な

あたらしい家族の ひとりとして

忘れないでくれ

やさしい ことばをかけてくれ

(※) シェフチエンコは農奴の子として
生まれて激動の時代を歩んだ。当時こ
の詩は彼の詩集から外された。反ソ・
ウクライナ民族主義的とみなされたか
らである。

(参考資料・「物語ウクライナの歴史」)

栗原貞子 戦争とは何かを問う

生ましめんかなー 原子爆弾秘話ー

こわれたビルディングの地下室の夜だった

原子爆弾の負傷者たちは

ローソク一本ない暗い地下室を

うずめて、いっぱいだった。

生ぐさい血の臭い、死臭。

汗くさい人いきれ、うめきこえ。

その中から不思議な声がかきこえて来た。

「赤ん坊が生まれる」と言っただ。

この地獄の底のような地下室で

今、若い女が産気づいているのだ。

マッチ一本ないくらがりです

どうしたらいいのだろう

人々は自分の痛みを忘れて気づかった。

と、「私が産婆です。私が生ませましよう」

と言ったのは

さつきまでうめいていた重傷者だ。

かくてくらがりの地獄の底で

新しい生命は生まれた。

かくてあかつきを待たず産婆は

血まみれのまま死んだ。

生ましめんかな

生ましめんかな

己が命捨つとも

(一九四六年三月『中国文化』)

栗原貞子の詩の中で最もよく知られ

るのが「生ましめんかな」の一篇だろ

う。一九四六年八月六日、米軍機に

よる原爆投下の直後、旧広島貯金局の

地下室で一人の赤ん坊がうまれた。母

の名は平野美貴子、生まれた子は和

子。赤ん坊を取り上げた産婆は三好ウ

メノ。産婆はその行為のすぐ後で亡く

なった。

(情報提供〓亀公子さん)

栗原貞子 1913 - 2005 昭和～平成時代の詩人。

戦時中「人間の尊厳」などの反戦詩をかく。20年広島で被爆。夫とともに「中国文化連盟」を結成し、21年機関誌「中国文化」を創刊、原爆特集号に詩「生ましめんかな」を発表、また反戦詩集「黒い卵」を自費出版した。その後も原水爆禁止運動にとりくみ、「私は広島を証言する」「ヒロシマ・未来風景」などを刊行。平成17年3月6日死去。92歳。広島県出身。可部高女卒。

レイバーネット日本川柳班篇

世直し川柳かわら版

乱鬼龍さんから「かわら版」が届きました。一部を紹介します。

お仕着せと言われようとも一張羅

J・ポンド

戦争がすでにそこまで来た日本
資本主義ツケは地球をかけめぐる

乱鬼龍

この国に空気のようにある差別
戦争とインフレいつも二人連れ

茫野

君が代の強制ふれるメディアなく
怖いのは隣国よりもアベ一家

なすな

米基地を遺骨で造るヤマトンチュー
米軍機飛ぶ日常の不感症

木根川八郎

歴史が今を今を未来が略奪す
同性婚俺が許すと憲法君

白真弓

ネオナチも英雄となる愛国心
憲法を教え偏向だと言われ

奥徒

憲法の上にするする星条旗

笑い茸

~~~~~

## 『投稿』 私たちに決意はあるか —— 巨大な歴史的な大転換の時代を生きる —— 乱鬼龍

今、地球的規模で、環境問題の深刻さをはじめとする、実に多くの難問をかかえている中で、この国、社会全体の「古さ」「劣悪さ」は世界水準に照らし、一体「何周遅れ」なのだと思うほどの低水準を露呈している。

古今東西、進歩性を失った世の中では、その思想は退行し、ヘイトスピーチに代表されるような、醜悪で犯罪的な言動が、まかり通る。実に生きづらく重苦しい空気が漂うような時代になってきている。

「新しい時代の酒は、新しい皮袋に」という言葉があるように、この時代の根底と、地球史の見地から、強力に要求されている時代状況だと私は思う。

そのことを、本当に厳しく、重く受けとめている「左派」「リベラル」「民衆」、一体どれほどいるといえるだろうか。

古い、古い、ステレオタイプのマンネリの「左派」「市民運動」といったものに全く興味も感動もしない——という若い世代の批判に、真剣に学び、応えようとする「戦後革新」は、一体、どれほどいるといえるか。

要求されている課題は、とてつもなく巨大だが、たえず考えて、しっかりと勉強をし、一生懸命に生きる——そうした努力をして、みんなで力をあわせて、進まなければならない。それが、今日の希望だ。

(2021.11.14 記)

編集子＝紙面の都合で抜粋しました。

## 連載

## 東京災難畫信

竹久夢二

## 七. 被服廠跡

災害の翌日に見た被服廠は實に死體の海だった。戦争の為に戦場で死んだ人達は、おそらくこれ程悲惨ではあるまい。つひさつきまで生活してゐた者が、何の為にでもなく、死ぬ謂はれもなく死んでゆくのだ。死にたくない、どうかして生きたいと、もがき苦しんだ形がそのままに、苦患の波が、ひしめき重なつてゐるのだ。相撲取らしい男は土俵の上で戦つてゐるやうに眼に見えぬ敵にあらん限りの力を出した形で死んでゐる。子を抱きしめて死んだ女は、哀れではあるがまだ美しい。血気の男の死と戦つた形は、とても惨しくて、どうしても描く氣になれなかった。

この繪は、最後の死體を焼いてゐる十六日に寫したものだ。市はこの空地をどう利用するつもりか知らないが、何か愉快な寺でも建て、この空地をはじめ兩國のあたり川岸一帯に柳でも植て、せめて死者のために、工場の煙の来ない緑の樂土にしてほしい。昔の事は知らないが、柳橋に柳が沢山植てあつたり、緑町が文字通り緑であつたら、こんなことも或は免れたのかも知れない。



都新聞

大正十二年九月二十日 木曜日

戦争前夜の竹下夢二は2020年会報9月号・11月号参照

連載

# 戦争前夜抄

周立東爺

38

## 新憲法の柱を作った

### 鈴木義男さんという人

その3

鈴木義男、戦後政治家に転身してから市民から親しみを込めてギダンさんと呼ばれた人。その人となりについて東北学院大学の「鈴木義男研究会」資料から抜粋して紹介したい。

鈴木義男は1894（明治27）年1月、父・義一、母・イエの三男として、福島県白河町（現在の白河市）で生まれた。当地は、明治維新時、東北軍（奥羽越列藩同盟軍）と新政府軍とが激しく争った「白河口の戦い」で知られる。そばを阿武隈川が流れている。

鈴木家は白河地方きつての旧家の一つであり、江戸時代には苗字・帯刀を許された検断・駒付等

の役職についていた地主であったものの、明治維新以降は家財が傾き田畑を手放し、明治末期頃には馬の内羅葉の製薬店（天祐堂）と書店を営んで家計を維持していたようである。

鈴木義男は、1907（明治40）年4月から約5年間、東北学院普通科に在籍していた。そこで勉学に励む一方で弁論大会などに参加し、弁論の才覚を開花させていった。

鈴木義男が5年生のとき（18歳）に応募した懸賞論文で「一等当選」した。懸賞論文の募集テーマは「禁酒」で、タイトルは「絶対的禁酒の価値」であった。

#### 冒頭の一節。

——予思ふ。古には酒なるものなし。人々山野草木の間に住して、天と親しみ、自然を愛し、餓れば即ち食ひ渴すれば即ち飲む。天帝の与ふる果実清泉の外には、未だ嘗て酒なるものあらざし也。中頃、人漸く狡猾となり罪惡を犯し、人倫を破るや、遂に酒なるものもの生ず。故に酒の出づるや此の如く不神聖也。而して是



より罪惡の生ずる処常に酒の伴なざるはなし。宴会、祭葬、必ず酒あり。酔うては人倫を乱し、平和を破り、事情を酒に托して罪を行ひ、自暴自棄しては、また酒を飲む。かくの如きこと数千年、人類は漸く墮落し、腐敗して底止する所を知らず。世界の民族は滔々として狂水の渦中に捲き去られんとす。予は断言す。酒は絶対に人類に要なし。――

なかなか厳しい。好酒家には耳が痛い。鈴木は、飲酒により「酔うては人倫を乱し、平和を破り、事情を酒に托して罪を行ひ、自暴自棄しては、また酒を飲む」などと述べ、禁酒することの意義を力説している。

当時の著名人四名の審査員全員が満点を与えたという。

東北学院を卒業後、第二高等学校に進学した鈴木は、引き続き勉学に励む一方で弁論部に所属し、さらに弁論の才覚を磨いていた。同時にキリスト教愛好会「忠愛之友俱樂部」に所属している。

第二高等学校卒業後の1915年9月、鈴木は

東京帝国大学法科大学に進学した。当時の生活の様子は「筭が頭を出すあばら家の生活」だった。それには「私は学者になることが念願であつたので、そのためには万巻の書を読破することが必要で、収入の半分以上は、書物を買ふために費されたのである。」とあり、友人との交際などは避け「勉強の時間が惜しかったのである。」と書いている。

1919（大正8）年7月、鈴木は東京帝国大学を卒業し、9月には東京帝国大学法学部の助手に採用された。11月、父・義一は、日本メソジスト派の東北内の牧師だった父が他界する。

鈴木義男は、1921（大正10）年7月から約2年8ヶ月間、ヨーロッパ諸国やアメリカへ留学した。

知人宛の手紙が見つかっている。

「謹啓 向暑の砌各位倍々御清福の段奉大賀候、陳者小生此度官命に依り、行政学、行政法学並に社会法研究のため欧米諸国に留学を命ぜられ、本月二十二日、横浜郵船クライスト号にて仏国に向け出発の予定に御座候……」

鈴木義男がドイツ、フランスに滞在していた際に、日本へ書き送った論稿が岩波「思想」、政法大学「法学志林」他、専門誌に十五本が掲載され、総頁数は一〇〇頁以上になっている。社会運動・労働運動を視野に入れた実践的な関心と結びついた論稿だった。留学中に書いた多数の著作があったようだが、1923（大正12）年9月1日に発生した関東大震災の際、「灰燼に帰した」。

ドイツ滞在時には帰国後には東北帝国大学に着任する予定で多くの書籍や書簡を大学へ送っている。

1924年4月から約5年間、東北帝国大学法文学部教授を務めた。講義の担当は主に「行政法論」で「社会法論」の講義もしていた。その講義

のテキストの手書き、謄写版刷り資料も大学で見つかっている。

これらの中に「生存権」についての法の原則が詳しく述べられている。

「生存権」は、戦後、日本国憲法第25条に盛り込まれた人権規定の一つで、ワイマール憲法（1919年）で初めて規定されたものだった。ワイマール憲法の第一五一条には、「**経済生活の秩序は、すべての者に人間たるに値する生活を保障する目的をもつ正義の原則に適合しなければならぬ**」と規定されている。後に鈴木義男は弁護士となり、治安維持法事件の弁護に大きな意味をもつ論考であった。

さて、こうして東北帝国大学教授として地道な研究、講義で実績をあげてきた鈴木義男が、五年後、なぜ大学を追われ、弁護士となったのであろうか？

（つづく）

（元資料は東北学院大学・「鈴木義男に関する新資料／仁昌寺正一」ほか。）



鈴木義男教授  
（東北帝国大学）



## 編集後記を兼ねて

▼世界中の目が注がれるウクラ

イナの悲劇。長引くとの予想もある。▼元々第一次大戦に反対して民衆が立ち上がった成立した旧ソ連。そのDNAを持つプーチン大統領がなぜ？ 疑問符だらけである。▼まったく新しい価値観の創造が必要なのだろう。乱鬼龍さんから投稿をいただいた(11頁)。「私たちに決意はあるか」と問題提起している「鶴彬を顕彰する会」の通信「はばたき」の購読をおすすめします。年購読／3000円です。

る。▼「ペンは剣よりも強し」とか「命は地球より重し」という言葉がある。しかし現実には「命は鴻毛より軽し」であった。▼一般紙にも川柳で戦争句が目立つ。「戦争のニース待合室静か」「たましいを何に売ったか独裁者」「老人会戦争反対決議する(仲畑流万能川柳)▼比べて鶴彬の川柳が色あせない。「高粱の実りへ戦車と靴の鉄」「手と足をもいで丸太にしてかへし」「万歳とあけて行った手を大陸において来た」「胎内の動き知るころ骨がつき」(周)

## 5月例会ご案内(毎月第4木曜日)

◆例会 5月26日(木) ◆投稿×切:23日(月)

◆課題「政」3句以内 ◆自由吟:5句以内

◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論などもよろしく。

◆オミクロン株警戒で例会は誌上となります。

●投稿FAX(076) 254-0762

●メールアドレスは下段に。

郵送は  
下段住所へ。

「和川柳社」会報  
会員募集しています!

同人:4000円/年  
投句/購読:2000円/年

★会報の他に、関連資料などもお送りします。

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目15-30(3-2) (渡辺 寛)

電話 FAX: 076-254-0762 PC-mail: kananabe@popolo.org

携帯: 090-9445-1302 携帯 mail: kan-wata@i.softbank.jp

振込先: 北國銀行中央市場支店 #191 普通 640 「和川柳社」

発送に協力いただいています。

▼《食育のグリーンノート&土の音工房》《オカリナ制作》・上村彰